

平成27年度 キャリア教育推進地域事業推進校

研究テーマ

学校名： 上分小中学校

自分の考えを持ち、伝え合う活動ができる子どもの育成

＜研究サブテーマ＞

学習研究部会

小学校

～よく聞く、よく考える、しっかり伝える～

中学校

～自他の考えを意識した話し合いができる生徒～

仲間づくり部会

～認め合い、励まし合い、主体的に活動する～

(一人ひとりの自尊感情を高める教育実践・コミュニケーション能力を育む教育実践・主体性を伸ばす教育実践)

1. 取組内容

＜推進体制＞

研究主任・キャリア教育担当者を中心に小中合同の2部会において、学習研究部で学力向上、仲間づくり部で基本的生活習慣の確立と社会性の育成を目指すとともに、キャリア教育の視点とユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりを推進する。また、推進地域連絡協議会や他の中学校区の取り組み等の情報を共有しながら教育の充実を図る。

＜育成すべき能力や態度＞

【人間関係形成・社会形成能力(かかわる力)】

・相手の意見を聴く ・自分の言葉で伝える ・自分の役割を果たす

【自己理解・自己管理能力(みつめる力)】

・自分を肯定的に評価する ・自分に自信を持つ ・自分をコントロールする

【課題対応能力(やりぬく力)】

・課題を見つける ・計画を立てて見直す ・解決方法を工夫する ・あきらめないで努力する

【キャリアプランニング能力(かなえる力)】

・働くことの大切さがわかる ・目標に向かって希望を持つ

＜キャリア教育重点目標＞

【学力向上】

・課題に対して自分に合った解決方法を考える。 ・自主学習の習慣を身につける。
・目的意識を持って学習や活動に取り組む。

【基本的生活習慣の確立】

・場に応じた返事やあいさつをする。 ・自分の言葉で伝える。
・自分で心身の調整をとりながら、あきらめず学習や活動を継続する。

【社会性の育成】

・相手を思いやり、協力し合って学習や活動に取り組む。
・自分の良さがわかり、伸ばすことができる。 ・夢や希望を持ち、実現に向かって努力する。

(各教科)

・学習規律や自分に合った学習方法を身につける。
・到達目標を明らかにして、自主的に学習する。
・相手意識をもって話す・聞く。(授業研後のキーワード)
・まず、肯定から入る。(授業研後のキーワード)
・何を話すのか観点をしっかり持つ。(授業研後のキーワード)

(道徳)

思いやりや感謝の心、心身の調整をとりながら自分を伸ばそうとする姿勢を持つ。

(特別活動)

集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする。

(総合的な学習の時間)

地域や社会、自然との関わりを通して自分の考えを深め、将来や生き方について考える。

1. 校内授業研究

○ 1年目の取り組み

～これまで研究してきたことにキャリア教育の視点をどう盛り込むのか～

本校では地域に根差した体験活動や、地域との交流行事や交流授業などを多数実施しているため、それらの取り組みがキャリア教育にどのようなつながっているのかを再確認していくことから研究に取り掛かった。そして、キャリア教育の視点を組み込んだ研究体制の構築や全体計画・年間指導計画の見直しも行った。

授業研、公開授業ではキャリア教育視点を意識して実施した。学習指導案の指導観に「キャリア観」を追記し、その授業をどのように児童生徒のキャリア意識の向上につなげていくのか、意図の明確化をめざした。3回実施した小中合同授業研の事後検討会では中部教育事務所の指導主事を招聘し『キャリア教育の視点』に関する講話をしていただいた。

月	講話	学んだこと
6	「キャリア教育の視点での授業のとらえ方Ⅰ」 (小野川美和子指導主事・小島ふみ子指導主事)	・キャリア視点で捉えた本時の展開の仕方と見方について ・体系的、系統的、意識的に取り組むことの大切さ等
7	「キャリア教育の視点での授業のとらえ方Ⅱ」 (中越英二指導主事・小島ふみ子指導主事)	・研究テーマの分析的な見方等
10	「キャリア教育の視点での授業のとらえ方Ⅲ」 (岩本博道指導主事・小島ふみ子指導主事)	キャリア教育で身に付けたい基礎的・汎用的能力について等

【全校授業研と事後検討会の持ち方についての共通理解と授業の様子】

6月17日(月)の全校授業研について

*** 研究授業の参観中 ***

『研究テーマ』と『本時の目標』が達成されているかについて…

青

良かった点
できていること

赤

課題点
改善した方がよい点

付箋は事前に配布します。
参観しながら記入して下さい。

*** グループ協議の概念化シートについて ***

①意見を出しながら付箋を貼る

②課題と解決案を話し合い、シートにメモしていく

③大きな課題を1つ選び、深める

④発表者を決める

良い点

課題点

子どもの姿

教師の姿

学校教育目標	『人間性豊かな、活力ある児童生徒の育成』
研究テーマ	自分の考えを持ち、伝え合う活動ができる子どもの育成
サブテーマ	小学校 学習 ～学んだことを活用し、豊かに表現することも～ 中学校 学習 ～話し合いと発表を取り入れた授業づくり～

(7月17日全校授業研の様子)



(フリップボードを用いた授業)
自分の考えを発表する生徒

そのほか、上分小中学校の体験活動や地域教材についても、キャリア教育の視点のどのような部分にあたるのかを検証しながら実施した。

○ 2年目の取り組み

～キャリア教育の視点をもって全ての授業や体験活動にのぞむ～

初年度の取り組みの反省として、「学習指導案にキャリア教育の視点をどのように記載するのか」が分かりにくい」「学校として統一した様式が必要では」といった意見があり、『上分流指導案様式』を作成し、全教員が共通した意識でキャリア教育視点の授業が行えるようにした。必ず盛り込んでもらいたいポイントを『必須①』『必須②』『必須③』『必須④』と4つ設定し、共通意識をもって取り組んだ。

『必須①』	・単元観（教材観・児童生徒観・指導観）の中で、キャリア教育の視点に関わる部分にアンダーラインを引く
『必須②』	・単元の指導目標にキャリア教育視点での目標を記載する ・『須崎のキャリア教育』の『キャリアの視点からみたつけたいカリスト』の基礎的・汎用的能力の4項目の中から選んだことを明記する
『必須③』	・本時の目標にキャリア教育視点での目標を記載する
『必須④』	・展開の指導上の留意点に、教科等の留意事項を○、キャリア教育視点での留意事項を☆と分類して記載する

校内研では須崎市キャリア教育推進員を招聘しての研修を毎回行い積み上げていった。また、指導案作成の際には助言をしていただいた。また学級活動や進路学習、体験活動など、様々な場面で『キャリアファイル』を活用した。

月	講話	学んだこと
5	「須崎市のキャリア教育について～キャリア教育視点で授業を変える～」 (橋村政海キャリア教育推進員)	須崎市の方向性と、取り組んでいくこと等
6	「キャリア教育の評価について」 (橋村政海キャリア教育推進員)	キャリア教育の評価規準・教科の目標とキャリアの目標について等
1	「キャリア視点での効果的な還元の仕方と最先端の実践」 (橋村政海キャリア教育推進員)	授業での切りかえし方や子どもへの返し方、他校の取り組みについて等

【参観シートの作成】

昨年度の反省の中で、「授業を参観する時の視点が明確でないため、効果的な研修につながらないのでは」という意見があったため、年度当初に『上分小中学校授業研・公開授業参観シート』を作成した。視点を①学習規律、②板書・資料、③学習活動、④指示・説明、⑤評価の5つに分け、本校の研究テーマやこれまでの全校研で確認してきた内容につながる視点も加えた。すべての授業研・公開授業でこの参観シートを活用し、意見や感想を集約して全員で共有している。

上分小中学校 授業研・公開授業 参観シート

【研究テーマ】

自分の考えを持ち、伝え合う活動ができる子どもの育成

月 日() 校時 授業者:

1: 不十分である 2: やや不十分である 3: おおむね取り組んでいる 4: 十分に取組んでいる

学習規律	1	2	3	4	気がついた点
始めと終わりのあいさつ					
発表や聞き方の指導					
板書・資料					
本時のめあて・目標の明示					
効果的な板書					
教具・教材・ICT機器の活用					
学習活動					
個人思考の時間確保					
ペア・グループ学習の場面設定					
発表・表現の場面設定					
指示・説明					
発問の工夫					
声の大きさ・話す速さ					
子どもをつながる声かけ					
評価					
意欲につながる評価					
本時の振り返り					

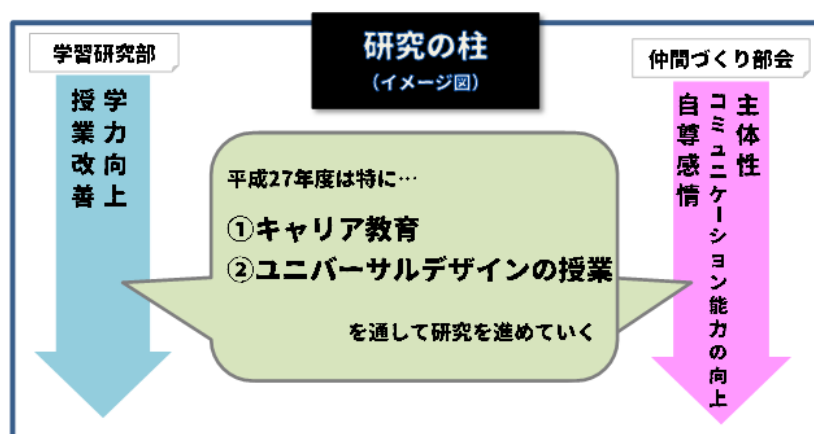
本時のねらい・目標の達成について（授業者の職務アナウンスに対してどうであったか）

その他気がついたこと・感想

○ 3年目の取り組み

～キャリア視点での授業実施の定着とユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり～

さらに機能的な組織運営を行うため、若干の組織改変をして研究の柱の再検討を行った。昨年度の反省から、どの子にもわかる授業づくりの手立てとして、ユニバーサルデザインの視点も加えることとした。そこで、まず、基本的なことから意思統一して学ぶために、県教育委員会の特別支援教育課の芝野稔チーフに来ていただいて、スタートしている。



月	講話	学んだこと
5	「ユニバーサルデザインに基づく授業づくりについて」(芝野稔チーフ)	環境の工夫、情報伝達の工夫、活動内容、評価の工夫について等
7	「キャリア教育の効果的な検証の仕方」(山崎繭指導主事)	子どもたちの「見取り」と教育活動の点検について等
8	「授業づくり・指導案作りについて」 中部教育事務所指導主事を招聘 垣内志帆・片山真由美・中内朋子・青木淑江・山崎繭・矢野芳恵指導主事	キャリア教育についての再確認、授業構成とキャリア教育の視点について等
10	「小中学校の各教科におけるキャリア教育の推進」(月原賢司指導主事)	各教科等との関連、教育内容と方法について等

(5月13日 中学1年生 美術科 「美術の伝える力」)



ピクトグラムの作成

研究授業は、時間の意識が明確で、テンポの良い授業だった。ユニバーサルデザインやキャリアの視点を入れた授業はどういうものかということがわかりやすい提案授業となった。

反省の中で、基本の話し合いのルールの確認が必要でないかということが出され、「話し合いのルールづくり」を行った。

また、板書の在り方や、ずっと実施してきた自尊感情アンケートの項目の見直しも行うこととした。

◎話し合いのルールづくり

人のことを大切にして聞こう

発言のマナー

聞こえる声で最後まではっきり話す

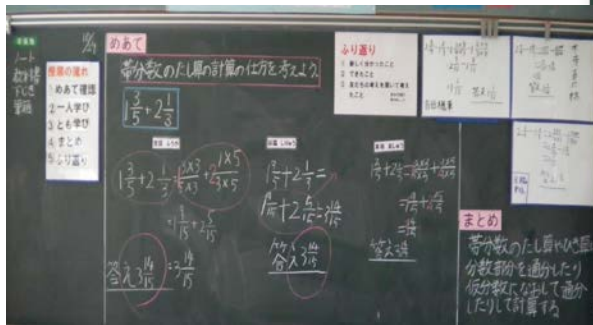
聞き方のマナー

話し手の方を見て最後まで聞く

話し合いの基本ルール

- ①司会は班長(代表委員)
- ②司会が時計回りにあてる
- ③司会は最後に発言
- ④発表者・記録は交代

◎板書の改善



全教員の板書撮影

全ての児童生徒に

わかりやすい板書について

共通理解

◎自尊感情アンケートの手直し

分類番号	カテゴリー	平成27年度 自尊感情アンケート(設問) 先生用	よくできた	できた	あまりよくできなかった
		I どれかに○をつけてください			
基礎的・汎用的能力	① 人間関係形成・社会関係形成能力	1 みんなで協力してできましたか。			
		2 活動の中で、友達の良いところを見つけましたか。			
	② 自己理解・自己管理能力	3 先生の話を、友達の意見をしっかりと聞きましたか。			
		4 規則、ルールや約束を守ってできましたか。			
	③ 課題対応能力	5 自ら進んで楽しく取り組みましたか。			
キャリアプランニング能力	④	7 この活動は、将来の目標や夢のヒントになりましたか。			
		8 上級生や中学生のようにやってみたいと思いますか。(小学生) これからも色々なことに積極的に取り組みたいと思いますか。(中学生)			
	⑤ 自己評価・自己受容	9 活動の中で、自分のよいところを見つけましたか。			
		10 進んで友達を手伝ったり助けてあげたりすることができましたか。			
		11 身近な人や地域の方に学べたことに感謝していますか。			
自尊感情	⑥ 自己主張・自己決定	12 自分の意見や考えを友達や先生に伝えることはできましたか。			
		II (清流を守る事業) が終わりました。あなたはどんなことをがんばりましたか?			
		III (清流を守る事業) が終わりました。よかったなあと思うことは何ですか?			
		IV (清流を守る事業) が終わりました。いやだったなあと思うことは何ですか?			

自尊感情アンケートにキャ

リアの視点を落とし込み

体験活動の再プランニング

2. 体験的な活動等

＜小中交流学习＞

交流学年		総合学習テーマ	基本的な活動内容
小学校	中学校		
3年生	1年生	小：地域/中：福祉	小：地域の人や自然にふれる 中：福祉に関する学習・清流荘への訪問 小中：互いの取り組みの報告
4・5年生	2年生	小：地域/中：職業	小：新庄川の学習 中：わくわくチャレンジinすさき 小中：互いの取り組みの報告
6年生	3年生	小：未来/中：進路	小：身のまわりのことから課題を見つけ探究 中：生き方を探る（キャリア教育） 小中：なりたい職業についてともに調べ発表する

①学習研究部の視点から

学習研究部は小中交流学习を通じて、生徒のコミュニケーション能力の向上やプレゼンテーションスキルの向上を目指している。

小学生にとって中学生は「身近な見本」である。集会や学校行事の司会やあいさつ、交流授業で行うプレゼンテーション、小学生への配慮など、中学生にとってはあたり前の姿も小学生にとってはあこがれになる。

小学生は中学生を見て「あんな中学生になりたい」と具体的な将来のイメージを持ち、中学生は小学生の期待に応え、見本となるように意識しながら、向上心を持って行動している。そのことが、中学生がリーダーシップを発揮しながら、相手意識をもって分かりやすく説明することにつながり、人間関係形成・社会形成能力の育成につながっていくのではないかと考える。



②仲間づくり部会の視点から

仲間づくり部会では小中交流学习を通して、異学年でかかわることで自尊感情を高め、他者に対する思いやりや接し方、気持ちを相手に伝える表現力の向上、また生徒自ら主体的に取り組む姿勢を育むことを目指している。

中学生は小学生とかかわることで、リーダーとしての自覚を再確認し、いわゆる「よいお手本」として主体的に活動できた。また、他者をいたわる気持ちや相手に分かりやすく伝える工夫が体験を通して身についてきた。小学生に分かりやすく伝えることで「人を大切にする」ことが体感できた。

また、小学生は「あんな中学生になりたい」、「優しく教えてくれてありがとう」「すごくわかりやすかった」といった感想が多くあった。お互いが感謝や尊敬の言葉や態度で授業に臨み、「認め合い、励まし合い、主体的に活動する」という仲間づくり部会のテーマに沿った取り組みができた。

この活動を通して主体的に活動し、協力し合うことで、課題対応能力の育成につなげていきたい。



<防災学習>

上分小中校区の多くは土砂災害警戒区域に指定されており、通学路も狭小で、台風や大雨のたびに崩落や冠水が心配される地域である。本校体育館は昨年度に耐震工事が行われ、地域の避難所にも指定されており、「避難訓練」や「消火訓練」、「救命救急講習」を毎年実施している。今年度は、6月19日(金)・20日(土)の2日間、宿泊を伴う防災キャンプを行なった。従来の内容を含め、「災害用伝言ダイヤルの使い方」や「高知県安全教育プログラムを活用した授業」、「新聞紙を使つての食器づくり」など、様々な防災教育プログラムを実践する機会を得た。



○防災マップづくり

小学1～6年生は、防災マップづくりに取り組んだ。オリエンテーションを受けた後、6つの縦割り班(校区を6分割)に分かれ、「通学路の危険な場所」「安全対策が施されているところ」「役立つもの」「施設」の4つの観点を持ち、通学路を実際に歩き直した。すると、普段、何気なく見過ごしているところに危険が潜んでいたり、緊急時に使えるものがあったり、見慣れた施設が避難所になっていたりとといった防災に関する多くの気づきがあった。見つけたモノは写真を撮り、

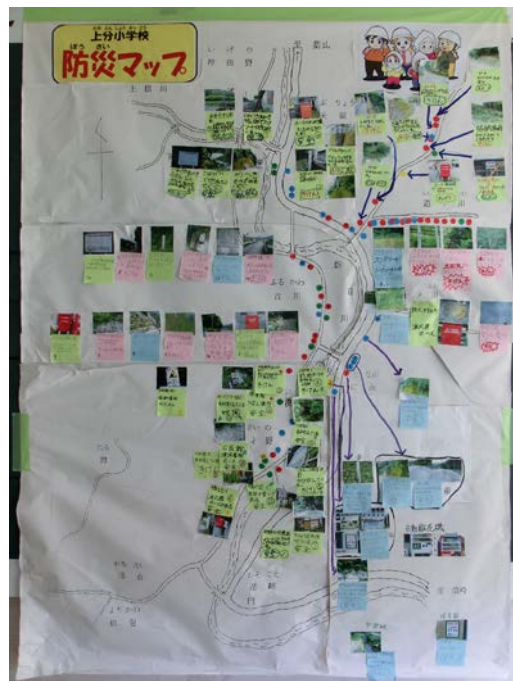
用紙に記入した。

学校へもどり、担当した通学路の地図をもとに、見つけていたことを確認し合う作業を行った。

上記の4観点到って用意した付箋に見つけたことを書き込み、現場の写真といっしょに地図に貼っていった。上分地区は「地滑り危険地域」に指定されている箇所があちこちにあり、注意喚起を促す立札がいたるところに立っていること、擁壁や防石ネット、砂防ダムなど対策を講じてくれている箇所がたくさんあること、町のあちこちに消火栓が配備されていたり災害時救急対応になっている自販機があることなど、それぞれのグループが発見したものを目で見て分かりやすいように地図上にまとめていった。

まとめたことを中学生や参観の保護者・地域の方々に向けて発表し、地域への啓発へとつなげていった。

防災マップづくりは初めての体験で、教師側も子どもたちも手探りの部分がたくさんあった。しかし、フィールドワーク・まとめ・発表という活動は、自分たちの住む上分地区を自らの目で見つめ直す主体的な学習となった。「毎日通りゆうのに、初めて気がついたことがいっぱいあった!」という子どもたちの気づきを大切に、課題対応能力の育成にもつなげていきたい。



OHUG体験の取り組み

小学6年生から中学3年生を対象に、HUG(避難所運営ゲーム)体験を実施した。高知高専の岡田准教授を講師に迎え、まず「南海地震が起きたとき須崎市はどうか」、また「上分地区ではどんな被害が予想されるか」などをいくつかのデータをもとに講演をしていただいた。そして、阪神・淡路大震災や東日本大震災後の避難生活の様子や状況について紹介をしていただいた。子どもたちは、これまでの防災学習やいろいろなメディアからの情報の中で、地震による津波についての知識や行動は学習してきていたが、山崩れや土砂災害の可能性の高さを改めて知ったことで、災害をより身近に感じたようであった。また、災害後の避難生活について詳しく知る機会が少なかったため、避難所の意義やどういう人が集まり、どういう場所となるか、また避難所の中で今の自分たちは何ができるかなど真剣な眼差しで講話を聞いたり、話し合ったりすることにつながった。

その後、体育館を避難所と想定し、何が必要でどれだけのスペースを確保するか、どれだけの人が避難できるかなど避難所のレイアウトを、グループに分かれて考えた。幼い子から高齢の方、支援のいる方など多種多様な人が避難所に来ることを前提に思考錯誤しながら話し合いを行い、作成したレイアウトをもとに避難所を設営した。そして、地域の方や保護者、小学生が被災者役となり、実際に



避難所運営を体験した。体験後の振り返りの中、大人数を相手に対応する難しさや突然の対応を要とする場面、組織的に動くことの難しさを述べ生徒が多くいた。実際の災害時にはさらに多くの定外のことが起こることにも気づくことができ自分たちが組織としてできることや自分自身ができるかを考えて動いたり、周りを見て連携し動ける力をつけることの大切さをそれぞれが考たりすることができた。

子どもたちの振り返りの中から、「体育館だけでなく校舎全体を避難場所と仮定した配置を考え

みると、災害が起きたときに設営や運営を考えていては遅いため、事前にレイアウトを作成しておくことが必要である」「そのときにしっかりと行動ができるよう経験を積んでおくことが必要である」「整列の指示を同時に出すのに苦労したので声をかける係を作った方がよい」などの体験に基づいて実感した声を聞くことができた。この活動も、課題対応能力育成につながっている。



新聞紙で食器作り



伝言ダイヤル

<中学校の 取り組み>

「職場体験学習」

○わくわくチャレンジ in すさきの取り組み

地域や自然の中で生徒の主体性を尊重した多様な活動や体験を通して、豊かな感性や創造性などを自ら高めたり、自分なりの生き方を発見したりすることにつながる支援として行っている。

今年度は、事前学習・事後学習、そして小学校との交流学习・文化祭に向けてとさらに発展させ、発表を行う予定である。

実践例（事後指導）

【14歳の決意】～職場体験で学んだことを深めよう～のワークシートで体験のまとめを行った。

個人でのまとめを仲間と共有し、自分の未来や将来につなげていくために14歳の決意として感想をまとめた。

【 14歳の決意 】		7月11日（金） 2年総合ワークシート	
～職場体験学習で学んだことを深めよう～		体験事業所名	2年 氏名
⑤ ☆ 働くために必要なことや大切なことをグループ（班）でランキングをしよう！！			
① ★ 職場体験学習の自分の立てた目標や、想像していた3日後の自分に近づきましたか？「これは完璧！！」を100%としてあなたの充実度は何%でしたか？		グループで話し合ったランキング	
%		1位	考えた理由
		2位	
		3位	
		4位	
		5位	
② ★ その理由を書いてみよう！		⑥ ☆ 職場体験学習で学んだことを、あなたの未来や将来につなげていくために「これからの自分」をしっかりと見つめ、今を大切にできる毎日を送るために【14歳の決意】を書こう！！	
③ ★ 心に印象に残ったことを書いてみよう！		こんな自分になりたい・・・ こんな勉強がしたい・・・ こんなことを頑張りたい・・・	
④ ★ 職場体験活動を通して学んだこと（働くために必要なことや大切なこと）はなんですか？			
学んだこと ①	具体的なエピソード		
学んだこと ②	具体的なエピソード		
学んだこと ③	具体的なエピソード		
学んだこと ④	具体的なエピソード		

（生徒の感想）

- ・この体験をする前は、すばやく行動できる、てきぱき行動できるようになりたかったです。体験後は、以前よりすばやく動けるようになりました。これからはもっとてきぱき動けるような自分になりたい。
- ・今回の職業体験を通して、働くことはとても大切なことだと分かった。笑顔を忘れず気持ちのよい態度で、何事にも責任を持ち最後までやりきれぬ自分になりたいと思った。これからたくさんのに挑戦して知識や経験も増やしたいし、マナーや言葉遣い、勉強も頑張りたい。
- ・もっとしっかりし、あいさつが大きな声でできるようにしたいし、言葉遣いも気を付けて、仕事に責任を持って取り組める自分になりたいです。自分の夢を叶えるために、毎日の自学や勉強をしっかりとやり、今まで以上にがんばりたいです。自分が今できること、やらなければならないことや言葉遣いなどを頑張りたいです。これが14歳の決意です。

【小学4、5年生への発表（交流授業）】発表に向けて、夏休みからパワーポイント・プレゼンの作成を始め、授業前にはリハーサルを行った。発表後には小学生から感想や質問が出され、それぞれが丁寧に答えて交流をした。

<小学校の取り組み>

今までの活動の体験活動の再プランニングをおこなった。(事前・事後指導、目的の明確化)

1・2年 「七夕飾り作り」 「昔遊び」



分からないことを聞いたり、ならったりして、お年寄りと関わろうとしている。

人間関係形成・社会形成能力

3年 「百歳体操」 「グランドゴルフ」



お年寄りと交流しながら、相手と気持ちを通わせられるように行動を考えている。

人間関係形成・社会形成能力

4・5年 「かわうそ未来塾」 「ゲストティーチャー」 「米作り」



学ぶことや、働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりする。

キャリアプランニング能力

4・5・6年 「夢先生」



自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考える。

キャリアプランニング能力

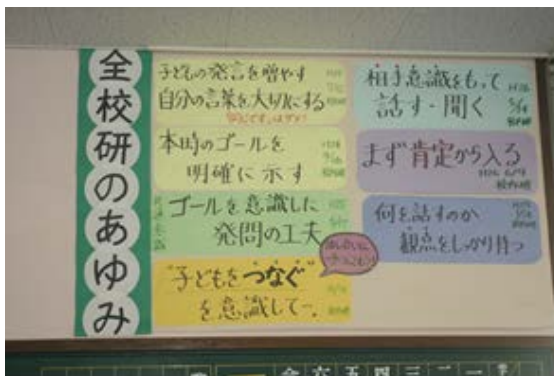
2. 成果

「授業研修」

研究授業では参観シートを活用して、本校の研究テーマや確認事項等の視点を確認しながら授業を参観し、改善点や感想などを集約して配布するようにした。このことによって、教科の課題だけでなく、学校全体で取り組むべき共通した課題を共有できた。さらに、職員室入口に掲示することによって職員の授業に取り組む姿勢にも変化がみられた。

また、キャリア教育の視点や指導上の留意事項等に関する意識も公開授業を行うごとに高まるとともに、小中学校全体の授業改善にも繋がっている。公開授業後の講話では、平成25年度より年に3回須崎市キャリア教育推進員や県の指導主事等を招聘し、段階を踏んだ研修を重ねることができた。

今年度より、キャリア教育の視点に加えてユニバーサルデザインの授業づくりについても全職員で研修や授業研究に取り組んでいる。



「クロス分析」

10年前から夏季休業中の1日をクロス分析の校内研として設定し、児童生徒理解と課題解決のための研究を行っている。学力調査、生活実態調査、Q-U、家庭学習調査、自尊感情アンケート等の結果と、学級での学習状況や生活実態等をクロスさせ、全教員で分析することによって、学級と個人の理解を深め、今後の改善方法について話し合いを持ち、2学期以降の指導に生かすことができています。

中学校の課題を小学校教員と一緒に考えることで、小学校のときの様子などを小学校教員の視点からアドバイスを受けられるなど、一貫教育の良さを生かした話し合いができる。また、昨年度からはスクールカウンセラーによる助言や講話も実施することができ、さらに理解が深まっている。

「全国学力・学習状況調査」

(小学校)

平成27年度全国学力学習状況調査では、全国正答率に比べ、国語Aで+0.6ポイントとなっており、書く能力はついている。また、算数Aで+6.7ポイントとなっており、数量や図形は比較的できている。基礎基本の力については、通年で全校的に行ってきた学力向上の取組（二分チャレ、かわうそステップ、新聞記事まとめ等）の成果が出ていると考えられる。

(中学校)

平成25年度からの3年間では、ほぼ全国平均値から教科によっては9ポイント近く上回った教科もある。生徒質問紙の「将来の夢や目標を持っていますか」の質問事項では、80ポイント以上となっており、全国平均を大きく上回っている。

「学校評価」

小学校では、「自分にはよいところがあると思いますか？」の質問事項で平成25年度83.3%から、26年度86.9%と自尊感情が高くなったことが分かる。

中学校では、「あなたは目標を持って学校生活を送っていますか」の質問事項では、平成25年度78.8%から26年度93.3%と大きく伸びた。

3. 課題とその改善策

「授業研修」

かつては、授業者が授業前に行うアナウンスにおいて、「授業の視点」についてのアピールが弱かったが、キャリアの視点を入れ、しっかりアナウンスをすることで、具体的な子どもの姿と結び付けやすくなった。今後も継続していくことが必要である。

また、授業後の協議では、児童生徒について、発表時の声の小さいことや相手を意識した発表ができていないなどの課題が出されていた。また、教師の課題としては、キャリア視点でのゴールがわかりにくいなどが、協議されてきた。

改善策としては、各授業の中で、児童生徒個人の思考や発表の時間を必ず確保して仕組んでいくこと、また、キャリア教育の評価規準を明確にすることを協議していくこととした。

「全国学力・学習状況調査」

(小学校)

B問題においては、課題がある。そこで、問われていることに正確に答えることを日々の実践で積み重ねていく。また、教科用語を用いて相手意識を持って伝える、説明する活動を確保していく。しっかり話すことができる児童を育てるために、しっかり「聞く」ことに重点をおき、指導していく。

(中学校)

国語では、表現技法・品詞・語句の意味の理解に課題がみられたので、表現技法・品詞・手紙の書き方については、折に触れて復習し定着させていく。言語知識に関しては、練習問題・小テストを重ね、その学習時にしっかり理解し覚えられるよう取り組むことを確認した。

数学では、文章を読み取り解決する問題や数学用語の意味の理解に課題がみられたので、普段の授業の中で、解き方を筋道たてて解説したり、述べたりさせることや根拠をしっかりとつかませ、説明させることなどを意識していくことを確認した。

理科では、実験を計画することや結果を考察し説明することに課題がみられたので、授業の中で予想・結果・考察をする時に根拠をもとに述べたり、説明させることを確認した。

「学校評価」

学校評価「これから特に学校に力を入れてほしいことは？」の質問事項で「将来の進路について考える時間をとる」と回答した生徒が25年度57.6%、26年度66.6%と9ポイント高くなっており、進路学習の充実に向けて取り組む必要がある。

「防災キャンプ」

これまでも年数回の避難訓練や救命救急講習などを実施してきており、避難の様子や人工呼吸・AEDの操作などを見ると、今までの積み重ねが行動につながっていることが分かる。しかし、経験したことがない場面や想定外の場面での行動には未熟さが見られた。今後は、避難だけでなく、その後復興するまでの生活を想定した取り組みも設定し、災害が起きたときに、自分の命を守ることができる人づくり、コミュニティーの一員として役割を果たせる人づくりを柱にこれからの防災学習を見直す必要がある。それぞれの活動を教育課程の中にどのように組み込み、継続していくかが今後の課題である。